

2014年度 センター試験 地理B(本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：36問	
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	○ 変化なし ● やや易化	○ 易化
問題の分量（対昨年）	● 増加	○ 変化なし	○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	
<p>総評 問題数は昨年から1問増加して36問になった。6択問題が増加したが、昨年見られた統計問題における選択肢の絞込みが困難な問題が減少したため、難易度としては易化したと言える。基本的知識とその背景まできちんと学習していれば、高得点を取ることも可能である。</p>			

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	世界の自然環境	16点	地形、災害、気候、土壌など自然環境について網羅的に出題された。これらの基礎知識を地図上でイメージする学習をしてきた受験生は、正解できたであろう。
第2問	世界の資源と産業	17点	教科書レベルの知識で十分に正答できる出題であった。問5についてはオーストラリアの産業立地についての詳細な知識が問われたが、その他は基礎的知識で解答できる内容であった。
第3問	都市と生活文化	17点	地理的思考力が問われる出題であった。問2の都市計画の年代を扱った問題は、詳細な知識を求めるやや難しい問題であった。問4の施設の立地問題、問5の地域生活の問題などは地図・図表に工夫の見られた良問であった。
第4問	西アジアと周辺地域	17点	これまで単独ではほとんど出題されなかった、西アジアの地誌からの出題。問1は首都の位置、集落の分布などと自然環境との関連性を問うやや難しい問題であったが、その他は基本的知識で解答できたであろう。
第5問	現代社会の諸問題	16点	選択肢の絞込みが非常に困難であった昨年と比較すると、絞込みの判断材料が明確化されたため、標準的な難易度の出題となった。問1では6つの選択肢から2つ解答する解答形式が復活した。
第6問	愛知県知多半島の地域調査	17点	地域調査についてのオーソドックスな出題。問題文と地図・図表を照らし合わせることで確実に解答できる。